

**アマガエル**  
刈谷市立重原幼稚園（愛知県刈谷市）

[4歳児]

**カエルやオタマジャクシに興味をもち、気付いたり分かったり発見したりすることが楽しいと感じる事例**

**<事前の様子>** 5月中旬、飼育ケースのカエルを見つける。「このカエルって1歳かな2歳かな?」「まだ、赤ちゃんのかな?」「まだ、小さいもん。赤ちゃんだよ」「違うよ。もう12歳くらいじゃない?」「カエルの赤ちゃんはオタマジャクシっていうんだよ。知っているもん」「うん。水の中にいるんだよ」「じゃあ、幼稚園でも探してみよう」「どこにいるのかな?探してみよう。オー!」と話し、園庭で探す。

	子どもの姿	援助 (○)・読み取り (*)
出会う	飼育ケースにオタマジャクシを見つける。 「あ!カエルの小さいのがカエルの子どもでオタマジャクシが赤ちゃんなんだね」「オタマジャクシは足がないよ」「しっぽがある」「あ!!色も違う」「分かった、手は中に隠してるんじゃない?ロボットみたいにガッチャンって出てくるんだよ」「しっぽはおしりの中に入っちゃうんだ」などと話題になる。	○オタマジャクシを入れた飼育ケースを、見やすい所に置く。
アマガエルさんがいない	登園後すぐに Y児「大変!!アマガエルさんがいない」と目を丸くして言う。 A児「うん、はりついてたよ」R児「アマガエルさんは力が強いから、逃げたのかな?」A児「ふた、開けられたのかな?」Y児「カエルさんのお水、汚いからじゃない?」と隣にあったオタマジャクシのケースと見比べて言う。 R児「くっさー」M児「腐っててくさいから、アマガエルさん逃げたんだ」 Y児「じゃ、お水を毎日替えようよ。オタマジャクシは水がきれいだから泳いでるんだよ」とY児・M児・A児が水を替え始める。 Y児「石もふたもきれいに洗わなくちゃ」 M児「うん。ピカピカにしてあげよう」 Y児「うん」と嬉しそうな顔をし、カエルを戻して、「大成功!!」と言う。 M児「お水がきれいになったから、元気になったね」 A児「なんかいつもより、びよんびよんしているよ」 A児「Yちゃん、ありがとうだって。聞こえた!」と言われるとR児は満足そうにする。 M児「お部屋がきれいになったもんね」 A児「早くオタマジャクシもカエルにならないかな…」 Y児「ふたも洗ってあげていい?ふたも汚いとオタマジャクシも泳ぎたなくなるから」と思い付いたように言う。早速流しにケースを洗いに行く。	○1匹いなくなった飼育ケースを、幼児の目の付く場に置く。 ○「え?昨日まではいたよね?」 ○「どれどれ?」と子どもたちと顔を見合せて水の匂いを嗅ぐ。 ○「そうかも。みんなも汚い所はいやだよ。毎日、片付けしてるし…」 ○「カエルさんも新しいお水になったら気持ちがいいって言うかな」 ○「みんなのお陰でカエルさん元気になったね。ありがとうって聞こえてきそう」 ○「アマガエルさんも帰ってくるといいね」 ○「そうだね、カエルさんもきれいな所がいいから、きっとオタマジャクシもきれいな所がいいよね」 * Y児はカエルの飼育ケースを整えたことによって、満足感を得た。そして、カエルだけではなく、飼っている他の生き物にも目が向き始めたようである。
アリさんに聞く?	カエルを見つけることが出来ないY児らは、登園後飼育ケースを見て「まだ、帰ってきてないね」「雨が降れば帰ってくるよ」「逃げたんじゃない?」と話す。 Y児「ね、アマガエルさんに手紙を書こうよ。帰ってきてねって」 M児「アマガエルの絵を描いて水槽に貼っておくっていうことにしよう」 Y児「アマガエル見つけてって旗も作ろう、5歳さんにも見つけてもらえるように」 A児「他の組にも捕まえなくてもいいから見つけたら教えてねって言おう」 A児「そうだ!アリさんに聞くっていうのはどうかな」 A児「お友達見つけたのかもね。きっとありがとうって手紙くるんじゃない?」 Y児「そうだね。また遊びにくるといいな」と言う。	○「どうしたら帰ってくるかな?」 ○「いい考え!きっと帰ってきてくれるよ」 ○「それもいい考え!ここがぼくのおうちかなってすぐわかるものね」 「小さい組さんには捕まえられないかもしれないもんね」 旗を作り、急いで園庭に行くがなかなか見つからない。 ○「アリさんならわかるかもね」と一緒に探す。 ○「きっとそうだね、アマガエルさんもみんなみたいに友達と楽しく遊んでいるのかもね」



**みどころ**

最初に飼育ケースのカエルを見た時に、年齢や大きさを話題にしたことでよく観る姿が引き出され、オタマジャクシもよく観て、気付いたことを出し合っています。こうして興味が深まり、すみかである水やケースの汚れへも気持ちるを向けることに繋がりました。また、いなくなったカエルへの思いを話す様子から、飼育することへの意識が高まったことが把握できます。